

## 特産品を味わう

第12回 J A 摩周湖農業祭 たぶん日本で一番早い新そば祭り  
姉妹都市 鹿児島県日置市 物産交流事業 黒豚祭2018in弟子屈

産の黒豚は、販売から数十分で売り切れるなど、大盛況でした。



特産品のサツマイモも販売

「北海道の名付け親」である松浦武四郎。その出身地三重県松阪市から、小野江小学校の6年生2人が来町し、8月27～29日の3日間にかけて、町内各地を訪問しました。北海道命名150年、松浦武四郎生誕200年、弟子屈探査160年の節目に初めて小学生の交流が実現。訪問団一行は屈斜路湖畔や摩周湖などを武四郎の足跡をたどりながら訪問しました。同小学校では武四郎を通じ、北海道やアイヌ民族についての学習も熱心に行われており、児童は行く先々でアイヌ民族と武四郎の足跡を見つけては感心して写真やメモを取っていました。



新そばを求めて行列も

吹奏楽による演奏会も

J A 摩周湖（川口覚組合長）と摩周そば生産組合（猪狩広昭組合長）が主催する「第12回 J A 摩周湖農業祭 たぶん日本で一番早い新そば祭り」が8月25日、同農協 A コープ駐車場前で開催され、町内外から訪れた多くの方でにぎわいました。台風が近づくとあいにくの天候でしたが、会場では「摩周そば生産組合」札幌蕎麦切会が弟子屈産のそばを使った、打ちたて、ゆでたての新そばを提供し、新そばを求める方で長い列ができていました。また、摩周メロンなどの農産物即売や地場産野菜などの天ぷら販売のほか、多彩なイベントも行われ来場者を楽しませました。

## 武四郎さんの足跡を訪ねて

松阪市小野江小学校児童が弟子屈町を訪問



アイヌ古式舞踊を見学 | 弟子屈小



松阪市について紹介 | 弟子屈小

児童は3日間の日程の中で、弟子屈小学校と和琴小学校も訪問。暖かい歓迎を受け、小学生同士交流を深めました。松阪市の紹介も行い、現在も松浦武四郎の生家が残っていること、毎年2月には「武四郎まつり」が行われ、アイヌ古式舞踊の披露や武四郎鍋・武四郎弁当が振る舞われることなどをこの日のために用意した資料を使って分かりやすく紹介。武四郎のことを敬愛をこめて「武四郎さん」と呼ぶなど、地域全体でふるさとの偉人の功績を後世に伝え続ける松阪市の様子が感じられました。



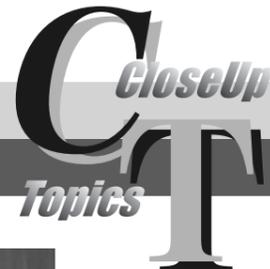
池の湯の碑を訪問し学習



北海道の遊び「大根抜き」を体験 | 和琴小

「北海道の名付け親」である松浦武四郎。その出身地三重県松阪市から、小野江小学校の6年生2人が来町し、8月27～29日の3日間にかけて、町内各地を訪問しました。北海道命名150年、松浦武四郎生誕200年、弟子屈探査160年の節目に初めて小学生の交流が実現。訪問団一行は屈斜路湖畔や摩周湖などを武四郎の足跡をたどりながら訪問しました。同小学校では武四郎を通じ、北海道やアイヌ民族についての学習も熱心に行われており、児童は行く先々でアイヌ民族と武四郎の足跡を見つけては感心して写真やメモを取っていました。

### 町の話



## 長寿祝い長年の貢献に感謝

町内各地で敬老会



子どもたちもお祝い | 屈斜路

人生の節目を祝う記念品 (市街地)

100歳を迎えた入居者へ賞状と銀杯が (老人ホーム偉和園)

9月18日の敬老の日にちなみ、町内各地で敬老会が開催されました。9月9日には、町内でいちばん早く美留和自治会（芳賀正美会長）で開催。参加者全員で食事を囲み、楽しく会がスタート。美留和小学校児童がよさこいソーランを披露するなど、会場は大いに盛り上がりしました。



和やかに祝杯を (川湯駅前)

9月12日には、養護老人ホーム偉和園と特別養護老人ホーム摩周の合同敬老会が偉和園で行われました。古希（70歳）、喜寿（77歳）、米寿（88歳）、白寿（99歳）を迎えた方に祝い品が贈られ、今年度100歳を迎える方には、内閣総理大臣からの賞状と銀杯が徳永町長の手から贈られました。9月17日には、弟子屈町睦会（高橋幸子会長）主催の「第70回弟子屈市街地区敬老会」が福祉センターで行われ、約270人が出席しました。古希、喜寿、米寿を迎えた方に祝い品が贈呈されたほか、さまざまなアトラクションも披露され、参加者の皆さんを楽しませました。



仲間と顔を合わせて | 美留和

### 町の話



### 町の話

## 各地で夏のにぎわい

弟子屈神社例大祭、川湯神社例大祭



子どもたちによる奉納相撲 | 一川湯



迫力のあるみこし行列 | 一川湯

子どもみこし | 弟子屈

お祭り日より。みこしパレードでは、町内バトンクラブの子どもたちも先頭に、本みこしや子どもみこしなどが町内を練り歩き、沿道の町民の皆さんを盛り上げました。途中、数カ所で行われたバトンや鑑別獅子舞の披露では、訪れた観客からたくさん拍手が送られていました。また、神社前にはたくさんのお店が並び、家族連れなどでにぎわいました。8月27日から29日には、川湯地区で川湯神社例大祭が行われました。夜に行われたみこし行列では、威勢のいい掛け声で出店通りを練り歩き、多くの来場者を楽しませました。神社前で川湯ばやしや披露されたら、最終日昼にはちびっこ相撲も催されるなど、終日多くの観客でにぎわいました。



いろいろな出店が軒を連ねる



威勢のいい本みこし | 弟子屈

弟子屈神社例大祭が8月19日から21日にかけて行われました。当日はすっきりとした青空が広がり、絶好の撮影日和。お祭り日より。みこしパレードでは、町内バトンクラブの子どもたちも先頭に、本みこしや子どもみこしなどが町内を練り歩き、沿道の町民の皆さんを盛り上げました。途中、数カ所で行われたバトンや鑑別獅子舞の披露では、訪れた観客からたくさん拍手が送られていました。また、神社前にはたくさんのお店が並び、家族連れなどでにぎわいました。8月27日から29日には、川湯地区で川湯神社例大祭が行われました。夜に行われたみこし行列では、威勢のいい掛け声で出店通りを練り歩き、多くの来場者を楽しませました。神社前で川湯ばやしや披露されたら、最終日昼にはちびっこ相撲も催されるなど、終日多くの観客でにぎわいました。

9月5日

### 「生きる力」を育む教育へき地複式教育研究大会を弟子屈で開催



「タヤげこやげ」をみぶりで表現

平成30年度第30回釧路へき地複式教育研究大会弟子屈大会が9月5日、奥春別小学校(小原正寿校長)を会場に行われました。

同校、美留和小学校(伊藤賢次校長)、和琴小学校(齋藤超校長)の3校による集合学習をメインに「自ら学び、豊かな心でたくましく郷土を切り拓く子どもの育成」〜かかわり合いながら、学ぶ楽しさを味わえる「集合学習」のあり方を求めて〜を大会の研究主題に、釧路管内の教員およそ70人が参加。低・中・高学年それぞれの教室で音楽・体育・図工の授業が実施され、子どもたちはいつもと違う環境でしたが、楽しみながら学習を深めていました。

9月2日

### 救急医療などの理解を深めるために救急フェア2018in摩周を開催



多くの方が訪れていました

弟子屈消防署主催による救急フェア2018in摩周が9月2日、道の駅摩周温泉で開催されました。9月9日の救急の日を前に、救急医療や救急業務の正しい理解と応急手当の普及拡大を目的に開催。当日は、心肺蘇生人形を使った心肺蘇生体験やAEDの取り扱いの説明、救急車や防災用品の展示、非常食などの試食などが行われました。道の駅に訪れた町民や観光客の皆さんは、実際に心肺蘇生を体験したり、非常食の試食を行うなど、救急医療について理解を深めていました。

医療や救急業務の正しい理解と応急手当の普及拡大を目的に開催。当日は、心肺蘇生人形を使った心肺蘇生体験やAEDの取り扱いの説明、救急車や防災用品の展示、非常食などの試食などが行われました。道の駅に訪れた町民や観光客の皆さんは、実際に心肺蘇生を体験したり、非常食の試食を行うなど、救急医療について理解を深めていました。

8月23日

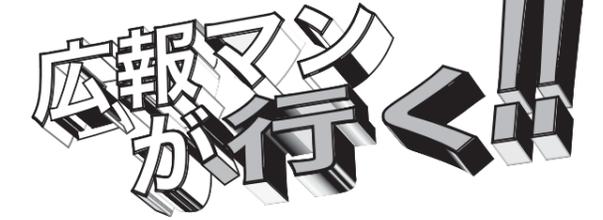
### ボランティア精神を学び幅広い人間性を身につける高文連第14回釧路支部ボランティア研究大会



点字アートを体験

平成30年度北海道高等学校文化連盟第14回釧路支部ボランティア研究大会が8月23日、町社会老人福祉センターで開催されました。ボランティア精神を学び、幅広い人間性を身につけることと、活動を通し、高校間の交流を目的に行われ、釧路管内8校、90人が参加。大会では、町内のホテル「ビュア・フィールド風曜日」の三木和子さんの講演が行われたほか、分科会として、仲間づくりワークショップ、点字アート体験、絵本づくり体験が行われ、生徒の皆さんは熱心に取り組んでいました。

## カメラスケッチ



このページは皆さんからの情報で作られています。どのような情報でもすぐ反映させます。お気軽にご連絡ください。



まちづくり政策課広報統計係 ☎ 4 8 2 - 2 9 1 3 (課直通)

9月13日

### 火の役割などを学ぶ炎の出前教室を開催



必死に火起こしをする児童

北海道LPガス協会釧路支部青年委員会(青木浩二委員長)による「炎の出前教室」が、9月13日、弟子屈小学校(中原英雄校長)のグラウンドで行われ、5年生38人が参加し、火と人の関わりや火の役割や火の種類について学びました。

出前教室には、同会員9人が来校し、おがくずをすり合わせる火起こしに児童といっしょに挑戦。煙が上がるとうちわで扇ぎながら火種を作り、焼き台に設置した、ミニキャンプファイアに点火しました。点火に成功した児童からは歓声があがり、火の貴重さや大切さを学んでいました。

9月13日

### 弟子屈の魅力再発見！児童が調べた町の魅力を発表 | 弟子屈小



12の班それぞれが発表

弟子屈小学校(中原英雄校長)の4年生児童が9月13日、弟子屈の魅力伝える壁新聞の発表を行いました。

同校では総合の学習の時間に摩周湖や硫黄山・屈斜路湖といった町内の魅力あるスポットについて学習し、それを伝える壁新聞の作成を行っています。児童は実際に各地に足をのびし、そこで働く人や訪れた観光客にインタビューするなどして、その地の歴史や魅力について調査。それぞれの班が工夫を凝らして発表しました。発表会には役場職員2人も招かれ、児童の発表を参観。最後に児童の学習テーマに沿った講演会も行われました。

8月24日

### 地域の役に立ちたい 仁多交流センターで社会貢献



刈払い機を使って丁寧な作業

明盛建設株式会社(藤田利道代表取締役)の皆さんが8月24日、仁多交流センターの環境整備を行いました。

地域住民の集いの場であるセンターの環境向上のため、社会貢献の一環として行われたもので、利用者が気持ちよく利用できるよう、手際よくセンター敷地内や外周の刈払い機による手作業で草刈りを行いました。

8月23日

### 本番さながらの緊張感 中小企業同友会・町商工会による模擬面接を実施



本番さながらの模擬面接

北海道中小企業同友会くしろ支部摩周地区会(宮田敬朗会長)による模擬面接が8月23日、就職を希望する弟子屈高校の

生徒12人を対象に行われました。同会が町商工会と協力し、9年前から実施。外部講師として、会員4人が面接官となり、生徒1人ずつと模擬面接に臨みました。会員の皆さんからは、面接時の声の大きさや話し方などのアドバイスの後、志望動機や時事問題などについて質問し、模擬面接の雰囲気は本番さながらの緊張感に包まれていました。

9月18日

### 弟子屈ならではの体験学習 カナディアンカヌー体験学習 | 弟子屈高校



パドルを操り半島を一周

弟子屈高校(宮崎円校長)の2年生16人が9月18日、和琴半島でカナディアンカヌーの体験学習を行いました。

選択教科で生涯スポーツを選択している生徒を対象に行われたもの。ノースイーストカヌーセンターの平塚一明さんの指導のもと、事前にカヌーのノウハウを学び、和琴半島をぐるりと一周するコースを体験しました。当日の屈斜路湖は気持ちのいい青空が広がり、風も穏やか。生徒たちはキャンプ場に面した湖岸から出発し、途中のオヤコツ地獄で温泉卵づくりを体験。自然の力強さを体感しつつ、楽しみながら学習を深めていました。

9月15~17日

### 英語に親しむ3日間 平成30年度弟子屈町イングリッシュキャンプ



ALTによる授業も

町教育委員会と町教育研究所による平成30年度弟子屈町イングリッシュキャンプが9月15日~17日の3日間にわたって

玉川大学北海道弟子屈農場美留和「晴耕塾」で行われました。平成27年に締結された学校法人玉川学園との包括連携協定に基づき行われているもので昨年に続き2回目。今年は小中高校生30人が参加し、町教育委員会のALTマイケルとマシューも講師として参加。玉川大学からも工藤藤教授と学生も参加し、町内の英語教諭などから普段できない英語学習を体験し、他校との児童生徒とも交流していました。

8月26日

### 夏の屈斜路湖で遠泳に挑戦 屈斜路オープンウォータースイミング大会を初開催



一斉にスタート

屈斜路湖では初開催となる第1回屈斜路湖オープンウォータースイミング大会(屈斜路OWS実行委員会主催)が8月26日、屈斜路湖畔、和琴半島キャンプ場近くで開催されました。オープンウォータースイミングとは、自然の海や湖・川などで行われるレースの総称で、北京オリンピックから正式種目にもなっています。この日は、水温が低く難しいコンディションでしたが、道内外から集まった300人の選手たちは、400mから5kmの距離をそれぞれの目標に向かい懸命に泳いでいました。

8月26日

### 町内で最後の開催 おひさま保育園の運動会



親子で力を合わせて

おひさま保育園(廣田勝彦園長)の運動会が8月26日に開催されました。今年度の町内の運動会では、同園が最後の開催です。

朝からの雨もあがり、残暑の日差しの中での開催となりました。園児たちはかけっこや趣向を凝らした団体競技、お遊戯などこれまでの練習の成果を精いっぱい披露。子どもたちの一生懸命な姿に、訪れた保護者などから大きな声援が送られました。